

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

<研究課題名>

ロコモ度と生活空間との関連性についての検討

<研究期間>

実施承認日～2023年3月31日

<研究の目的・意義>

名古屋大学と東郷町は地域住民の中高齢者を対象に、加齢による身体機能・認知機能低下の病態発生に関わる要因を明らかにすることを目的として共同研究を行っています。この共同研究では身体機能・認知機能の評価に加え、質問紙によるアンケート調査を実施しており、これらのデータを経時的に収集しています。今回は、その共同研究のデータを二次利用し、地域在住高齢者のロコモティブシンドロームと生活空間の関連を調査します。ロコモティブシンドロームとは運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態と定義される指標です。一方で、生活空間とは人が日常生活の中で一定期間に移動する空間領域と定義される概念です。これらの関連性を調べることにより、将来のロコモティブシンドロームの発症・進行予防対策へと活かしていきたいと考えています。

<研究対象者>

名古屋大学と東郷町の共同研究である健診事業の参加者で、2021年9月から2022年9月までに健診事業に参加し、データの二次利用に関する同意を得られた者を対象とします。対象者は65歳以上の地域在住高齢者とします。

<研究方法>

2022年度の名古屋大学・東郷町の共同研究である健診事業へ参加された方で、65歳以上の方のデータを使用させていただきます。

具体的には、**Life-Space Assessment** 日本語版という質問票を用いて生活空間の評価を行います。また、ロコモティブシンドロームの判定は、2ステップテストおよび立ち上がりテスト、ロコモ 25（質問紙）を用いて、ロコモ度という指標で評価していきます。その他の身体機能評価として、握力、5回立ち上がりテスト、Timed Up and Go test、10m歩行速度の結果を利用させていただきます。また、基本情報としては年齢、性別、併存疾患、同居家族の有無、身長、体重、筋肉量を利用させていただきます。今回の研究のために新たに検査を追加するなど、参加者の負担となるようなことは行いません。これらの情報を解析し、ロコモ度と生活空間の関係について、検討させていただきます。

<予測される利益・不利益について>

- 1) 本研究は過去に収集させていただいたデータの二次利用にて行う研究であるため、対象者に新たな危険や不利益が生じることはありません。
- 2) 対象者の個人情報厳格に守秘させていただきます。また、本研究以外に対象者のデータを使用することはありません。
- 3) 本研究への既存データの活用を拒否されたとしても、特に不利益を被ることはありません。また、理由の如何を問わず、いつでも既存データの活用の拒否をお申し出いただけます。

<本研究の実施について>

この研究は名古屋大学生命倫理審査委員会の承認を受けた上で行われます。もしも対象者の皆様がこの研究へのご自身の情報の利用を望まれない場合には、この研究には使用いたしませんので、下記連絡先までご連絡・ご相談ください。

しかしながら解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがありますのでご了承ください。

連絡先：

名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻
研究責任者 教授 杉浦英志
住所 名古屋市東区大幸南1-1-20
電話 052-719-1364
FAX 052-719-1506

苦情の受付先：

名古屋大学医学部保健学科 総務係
電話 052-719-1504

<個人情報の保護について>

研究に用いる情報は全て匿名化して誰の情報かわからないような形にしてから解析を行います。したがって対象者の皆様の個人情報他に漏れる心配はありません。

<費用について>

この研究に関して、参加者の方へご負担いただく費用はありません。また謝礼もありません。